

**【平成 9 (1997) 年度生まれ～平成 19 (2007) 年度生まれの女性】 と
【平成 20 (2008) 年度生まれの女性】 は
ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンを公費負担で接種できる期限が迫っています！
未接種の方は、至急 HPV ワクチン接種をご検討ください！！**

ヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチン接種について

子宮頸がんはヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチンで防ぐことのできる疾患ですが、令和 4 (2022) 年に HPV ワクチンの積極的勧奨が再開され 2 年半が経過したものの、接種率は推定で 20% 台と低迷しており、危機的な状況にあります。実際に接種率の低い世代では子宮頸がん検診における細胞診異常率が高くなっていることも報告されています (参考文献 1)。

(以下、参考文献 2 より抜粋・一部改変)

接種勧奨の一時的な差し控えがあったことから、HPV ワクチンの接種を逃した「平成 9 (1997) 年度生まれ～平成 19 (2007) 年度生まれ (誕生日が平成 9 (1997) 年 4 月 2 日～平成 20 (2008) 年 4 月 1 日) の女性」に対しては、公費によるキャッチアップ接種の機会が提供されていますが、キャッチアップ接種として受けられる期間は令和 7 (2025) 年 3 月末までとなっています。計 3 回の接種が完了するまでに標準的接種期間として約 6 か月間かかることから、接種を希望される方は、なるべく早めに接種をはじめてください。過去に HPV ワクチンを 1 回または 2 回接種した場合にも、残りの回数をキャッチアップ接種として公費で受けることができます。

また、HPV ワクチン定期接種の対象者は小学校 6 年～高校 1 年相当の女子ですので、現在高校 1 年相当の「平成 20 (2008) 年度生まれの女性」も、定期接種として受けられる期間は令和 7 (2025) 年 3 月末までになります。平成 20 (2008) 年度生まれの女性で接種を希望される方も、なるべく早めに接種をはじめてください。

公費によるキャッチアップ接種や定期接種の機会を逃しても、任意接種として自己負担で HPV ワクチン接種を受けることは可能ですが、2 価ワクチンおよび 4 価ワクチンでは 3 回接種で 4～5 万円、9 価ワクチンでは 3 回接種で 8～10 万円、2 回接種で 5～7 万円の接種費用がかかりますので、接種の希望がある方はこの接種機会を逃さな

いでください。

なお、令和 6 (2024) 年 9 月末までに開始すれば計 3 回の接種が可能ですが、体調がすぐれない中、無理をして接種することにならないよう、ワクチン接種を希望される場合には、早めに医療機関に相談し、余裕をもった接種スケジュールを組んでいただくことをお勧めします。また、ワクチン接種後に体調がすぐれないなどの変化が認められた場合には、接種を行った医師やかかりつけの医師にご相談ください。

2024 年 8 月 19 日

予防接種推進専門協議会

参考文献

1. Yagi A , Ueda Y, Ikeda S, Miyagi E, Sekine M, Enomoto T, Kimura T: The looming health hazard: A wave of HPV-related cancers in Japan is becoming a reality due to the continued suspension of the governmental recommendation of HPV vaccine. Lancet Reg Health West Pac. 2021 Dec 13;18:100327. doi: 10.1016/j.lanwpc.2021.100327. eCollection 2022 Jan. (PMID: 35024658)
2. 日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会：ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチン接種について。
https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20240723_hpv_0808.pdf
(2024年8月10日閲覧)